

②表現力とは

キーワードは自己である。生徒が内なるものを自分の言葉で語る・描く・演じる・訴える・感動する。生徒はいわゆる表現方法は身に付けられる。大切なのは「自己の内なる表現なのか」「練習の発展としての表現なのか」。生徒が授業において表現した内容が、貧弱な自己表現であったり、高度な疑似表現であったのでは「本校でめざす表現力」ではない。基礎学力の定着の上に立った表現力の育成と共に、自己実現や、自己存在感にスポットを当てた「めざす表現力」の育成に努めることが重要である。このような視点で各教科ごとに「めざす表現力」を明確にし、授業の質的改善に取り組んだ。

6 教科における研究計画

<第1年次>

○教科で求められる基礎学力の明確化
(基礎学力から期待できる表現力の追求)

○本校でめざす基礎学力の焦点化
・本校生徒が落ち込んでいる、またはぜひ身
につけさせたい基礎学力の焦点化
(本校生に期待したい表現力の追求)

<第2年次>

○教科で求められる表現力の明確化
(確かに基礎学力の再確認)

○本校でめざす豊かな表現力の焦点化
・本校生徒にとって不十分な、またはぜひ身
につけさせたい豊かな表現力の焦点化
(本校でめざす基礎学力の再検討)

○研究の手立て

- ・授業構成のあり方 (各活動の意図) •指導法 (めざす生徒像、生徒主体)
- ・単元全体計画での位置づけ •教材の創意・工夫

検 証 授 業 指 導 案 作 成

<指 導 案 事 前 檢 計 会>

- ア、基礎学力が的確にとらえられているか (1年次)
- イ、本校生に求める「豊かな」表現は適切であるか (2年次)
- ウ、生徒がねらいを達成するために指導過程、手立ては適切であるか
- エ、授業が生徒中心になって構成されているか

検 証 授 業

<授 業 分 析 ・ 研 究 協 議>

- ア、生徒が本時のねらいを達成できる授業構成であったか
- イ、生徒がねらいを達成するための手立ては適切であったか
- ウ、この授業でねらいとする基礎学力は定着したか (1年次)
- エ、生徒は豊かな表現ができていたか (2年次)

研 究 の ま と め